

1 主な年齢の平均余命

平成24年簡易生命表によると、男の平均寿命は79.94年、女の平均寿命は86.41年と前年と比較して男は0.50年、女は0.51年上回った。主な年齢の平均余命をみると、男女とも全年齢で前年を上回った。また、平均寿命の男女差は、6.47年で前年より0.01年増加した。

(表1、表2)

平均寿命の前年との差を死因別に分解すると、男女ともほとんどの死因が平均寿命を延ばす方向に働いており、特に、不慮の事故の再掲である地震による死亡率の変化が大きく影響している(図1)。

表1 主な年齢の平均余命

(単位：年)

年齢	男			女		
	平成24年	平成23年	前年との差	平成24年	平成23年	前年との差
0歳	79.94	79.44	0.50	86.41	85.90	0.51
5	75.19	74.71	0.48	81.67	81.19	0.48
10	70.23	69.77	0.46	76.70	76.24	0.46
15	65.26	64.81	0.45	71.72	71.28	0.44
20	60.36	59.93	0.43	66.78	66.35	0.43
25	55.52	55.10	0.42	61.85	61.45	0.40
30	50.69	50.28	0.41	56.94	56.56	0.38
35	45.85	45.47	0.38	52.04	51.69	0.35
40	41.05	40.69	0.36	47.17	46.84	0.33
45	36.32	35.98	0.34	42.35	42.05	0.30
50	31.70	31.39	0.31	37.59	37.32	0.27
55	27.23	26.95	0.28	32.92	32.68	0.24
60	22.93	22.70	0.23	28.33	28.12	0.21
65	18.89	18.69	0.20	23.82	23.66	0.16
70	15.11	14.93	0.18	19.45	19.31	0.14
75	11.57	11.43	0.14	15.27	15.16	0.11
80	8.48	8.39	0.09	11.43	11.36	0.07
85	6.00	5.96	0.04	8.10	8.07	0.03
90	4.16	4.14	0.02	5.47	5.46	0.01

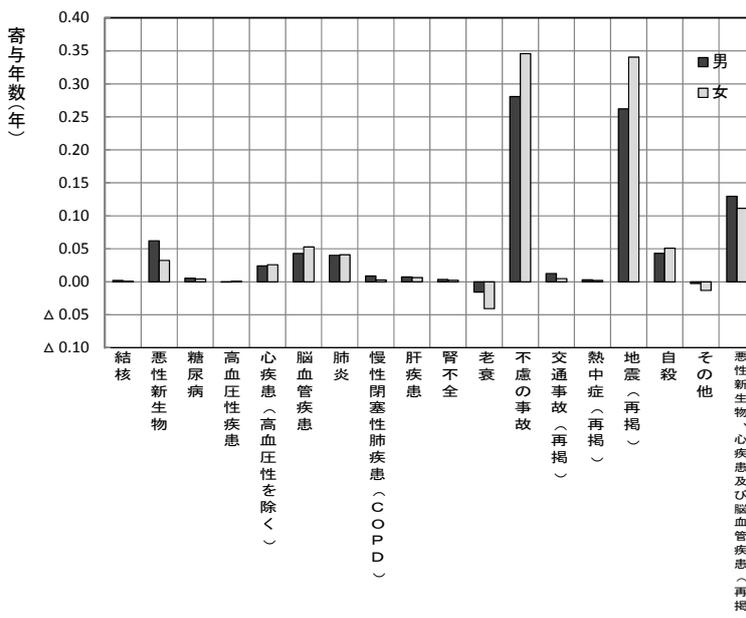
表2 平均寿命の年次推移

(単位：年)

和暦	男	女	男女差
昭和22年	50.06	53.96	3.90
25-27	59.57	62.97	3.40
30	63.60	67.75	4.15
35	65.32	70.19	4.87
40	67.74	72.92	5.18
45	69.31	74.66	5.35
50	71.73	76.89	5.16
55	73.35	78.76	5.41
60	74.78	80.48	5.70
平成2	75.92	81.90	5.98
7	76.38	82.85	6.47
12	77.72	84.60	6.88
13	78.07	84.93	6.86
14	78.32	85.23	6.91
15	78.36	85.33	6.97
16	78.64	85.59	6.95
17	78.56	85.52	6.96
18	79.00	85.81	6.81
19	79.19	85.99	6.80
20	79.29	86.05	6.76
21	79.59	86.44	6.85
22	79.55	86.30	6.75
23	79.44	85.90	6.46
24	79.94	86.41	6.47

注：1) 平成12年以前、平成17年及び平成22年は完全生命表による。
2) 昭和45年以前は、沖縄県を除く値である。

図1 平均寿命の前年との差に対する死因別寄与年数



[寄与年数]

(単位：年)

	男	女
計(前年との差)	0.50	0.51
結核	0.00	0.00
悪性新生物	0.06	0.03
糖尿病	0.01	0.00
高血圧性疾患	△0.00	0.00
心疾患(高血圧性を除く)	0.02	0.03
脳血管疾患	0.04	0.05
肺炎	0.04	0.04
慢性閉塞性肺疾患(COPD)	0.01	0.00
肝疾患	0.01	0.01
腎不全	0.00	0.00
老衰	△0.02	△0.04
不慮の事故	0.28	0.35
交通事故(再掲)	0.01	0.00
熱中症(再掲)	0.00	0.00
地震(再掲)	0.26	0.34
自殺	0.04	0.05
その他	△0.00	△0.01
悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患(再掲)	0.13	0.11

注：交通事故、熱中症及び地震は、不慮の事故の再掲である。